

気候変動を意識したコンパクトで丈夫な稲づくり！

コシヒカリの穂肥は確実に施用！

1 生育状況（7月21日現在）

コシヒカリ：草丈「やや長」 茎数「やや多」 葉数「並」 葉色「並」
新之助：草丈「やや長」 茎数「やや少」 葉数「並」 葉色「濃」

品 種		草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD 値)
コシヒカリ (調査点数7)	本年値	82	453	12.6	34.6
	指標比	やや長	やや多	並	並
新之助 (調査点数4)	本年値	69	496	12.4	36.7
	指標比	やや長	やや少	並	濃

2 出穂期予測と穂肥時期・施用量のめやす（7月21日現在）

	出穂期 予想※1	穂肥時期のめやす(出穂前日数)		窒素量 (kg/10a)
		1回目	2回目	
コシヒカリ	7/31	—	7/21(10)	0.5～1.5
新之助	8/10	7/20～7/23(21～18)	7/29～31(12～10)	1～3※2

※1 コシヒカリは稚苗を5月5日に、新之助は5月第3半旬に植えた場合の予想。

出穂期は今後の気象条件で変動する。

※2 新之助は2回の合計窒素量

3 今後の栽培管理

- (1) コシヒカリの穂肥は、後期栄養を確保するため、**出穂期10日前頃に窒素成分0.5～1.5kg/10a**を確実に施用する。

ただし、出穂期の葉色が32～33を維持できないと予想される場合は、分施、全量基肥体系とも出穂期の3日前（走り穂がみられる頃）までに追加穂肥を窒素成分1.0kg/10aを施用する。

- (2) 新之助の穂肥量は1回当たり窒素成分1.0kg/10aをめやすとする。栄養凋落が予想される場合は1回当たり窒素成分1.5kg/10aを上限に施用量を調整する。

- (3) 斑点米カメムシ類の発生量が多くなっているので、密度を低減させるため雑草が結実しない間隔で畦畔や農道の除草を実施する。

詳しい技術情報については、
稲作技術情報もご覧ください。



暑い日が続きますので、農作業時の
熱中症に気を付けましょう。

